

釣れ釣れなるままに

2016年思い出の釣行記 PART. 6

日本海太平洋沖海へ釣行脚 鹿島釣狂

【日本海大楸海岸のカレイ】

天気予報を見ながら、年に1回くらいは留萌海岸でのカレイ釣りもいいのではと思い、小平町大楸海岸を目指すことにしていた。もし駄目なら苦枚港で夜釣りをしようと思う。しばらく風の日が続くようだ。土日は避けてと考えると6月6日（月）午前中に歯科医院の予約を入れていたので、とりあえず、仕掛や餌の準備を整えてから、歯科医で虫歯の治療をもらった。神経を抜いていた歯に詰め物をして、しばらく様子を見ましようということになった。

天気は下り坂になっていく模様なので、今日から明日にかけて行くしかないと思ってから昼飯を食べてから出発した。大楸は絶好のカレイ波で、午後3時には釣りを開始した。右にルアーを引いている釣り人がいたので話し掛けた。猿払でイトウを狙ったが全く駄目で、しかたなくサクラマスでも釣れないかここに来たとのことだ。更に左にいた歌志内から来たという投げ釣り師2名にも話を聞いた。初山別第2榮で釣りをしたが2尺ぐらいのアカハラを釣ったのみで、カレイは1枚も上がらなかった。仕方がないのでここに来た。まだ炭鉱の華やかな頃、よくここで真ガレイを大釣りした記憶が残っており期待してきたのだが、12時頃からやって木っ端川ガレイが1枚釣れただけと、その声にも元気がなかった。テントを張って明日も頑張るつもりだと話してくれた。

アタリが出たが、川ガレイやイシモチで、手の平より小さい。カゴ付き仕掛に真ガレイと木っ端ガレイがダブルで来た時に、先ほどの歌志内から来たという釣り人の片割れがやって来た。釣ったばかりの真ガレイがバケツから飛び出したのを見て、「やっぱりここが釣れるんだなあ。しかし、もう歩きたくない。川を渉るのもいやだ」と戻っていった。

狐がやって来た。しっかり荷物を整理してから追っ払った。しかし、狐は川を挟んでるので逃げ場がない。近くにいて悪さをされてもいやだなと追い込んでいくと、逃げられないと思ったのか川を渉って行ってしまった。



夕日を見ながらしばらく考え込む

夕闇が迫ってきた。ここで釣れなければ移動しようと考えていたのでビールを入れたクーラーは車に積んだままだ。移動しないと決めると無性に喉が渇く。夕食をとりながらビールをゴクゴクとやり車の中で微睡んだ。気が付いたときは明るくなっていた。投げっぱなしにしておいた竿には、川ガレイが1枚、イシモチが2枚ついていた。

旭川の若者が右隣でサクラマスを狙ってルアーを引いた。メインはショアでのルアーだが、投げ釣りもこなしているという。先日、天塩の砂防堤でカスベを釣ったことを明かしてくれた。私がショウサイフグを釣ったのを見て、日本海でも釣れるのですねと不思議そうに話した。オホーツク方面で釣りをすることが多く、ショウサイフグには手を焼いているのだそうだ。嫁の実家が恵庭なので、来週は義父と室蘭港に釣りに行く約束をしているのだと話してくれた。いい婿さんだ。羨ましい。

今回、新しく出たハリ外しを持っていった。「フジワラ スーパー」というものだ。強度の問題がありそうだがなかなかの優れものだった。イソメもたっぷりあるので使い切ってしまうとたつぷりとハリに刺して使ったが満足な釣果は得られなかった。結局今朝からの釣果は手の平級が4枚で9時に引き上げることになった。



真ガレイは1枚のみだった。

【太平洋エリモのアブラコ】

平成28年度第3回大会が6月19日（日）、笛舞港～東洋港で開催された。当日は、前日まで様似～冬島間が通行止めになるという大雨が嘘のように回復し、穏やかな釣り日和となった。海水温はいつもより温かな感じがしたが昆布取りは始まっていなかった。今回が今年初参加となる谷口氏から差し入れられたお酒を回し飲みしながら釣り談義に花が咲いた。

私は、いつもの通り東歌別で下りた。まずは嫁のカジカを確保しておかなくてはと防潮堤の一番左についた舟揚げ場で竿を出した。いつものようにゴロネット仕掛けをドボン、ドボンと打ち込んでから2本バリ仕掛けを遠投した。しかし小さなハゴトコのアタリがあるだけで竿をグインと引き込むアタリは出ない。そのうちに釣り人がやってきて「隣でやってもいいですか」と声をかけられたので、舟揚げ場の中央に立てていた三脚をずらして、左端に構えた。彼は愛釣会に所属し道釣連の北支部長を務めている高橋と名乗った。大会運営のことなどを取り留めもなく話したが、さすがに支部長というだけの人望が窺い知れた。

ハゴトコと遊んでいると金井泰樹氏が様子をうかがいにやってきた。やはりハゴトコしか来ていないようで高橋支部長と話し込んでから釣り場に戻っていった。小カジカが1本来たが、それ以上は望めそうもないので移動することにした。

舟揚げ場には釣り人が満杯の状態なので防潮堤の上から遠投した。35cm以下のカジカが3本になった。アブラコはいまだ来ない。私が乗る予定の岩に上げられるようになるまで時

間があるので、広い範囲で出てきた大平盤方向へ様子を見に行ってみた。釣り人に聞いてみたがまだあまり釣果は上がっていないようだ。そして、前の盤に少しずつ前進していく。金井氏が向かいの大平盤の先端に出て竿を振っているのが見えた。

6時に渡る準備を始め、6時半には移動完了し、1本バリで2本を遠投し、ゴロネット仕掛を近投した。さあ、これから大物アブラコとの格闘になる。近投した竿がガクンガクンと持ち上がりホンダワラを引き千切りながら35cm上のカジカが上がった。嫁が少し大きくなった。しかし、まだ婿になるはずのアブラコは釣れていない。

8時半、ようやく遠投した竿に大きなアタリが出た。50cmには届かなかったが立派なアブラコである。その後、ハゴトコに混じって似たようなアブラコがもう1本来た。9時半、周りにいた釣り人がいなくなったので自分も片づけて国道に上がった。東歌別バス停には10名ほどの釣り人がバスを待っていた。高橋北支部長は最後まで最初の釣り場で粘ったようだったがあまりよいものは上がらなかったという。



歌別漁港方向を望む



アブラコ2本



左から準優勝：吉井 博、優勝：金井泰樹、身長優勝：前野達志、3位：西川絢一

優勝者は金井氏で1, 656点という稀にみる高得点をたたき出した。暗い内はハゴトコのみで全然駄目だと言っていたのが嘘のように、明けて8:00に来たアブラコ53.6cmをはじめとして50cmUPの大物を3本揃えてきた。

準優勝は吉井氏で、これも高得点の1, 570点だった。いつもの横澗は波が打ち上がっており入ることは出来なかったが、まずは横澗の湾洞で大カジカを釣りあげた。エンドモ岬に着いたときは潮待ちの先客がいたので先に渡るのを遠慮して、最後に渡った出岬でアブラコを好釣したのだ。

3位は、1443点の西川氏だった。坂岸で暗い内の満潮前に大カジカを取り、波飛沫を被りながら立ち込んだエリモの8時半に大アブラコを射止めた。今日は酒を嗜むこともせずに最後まで釣り続けたようだった。

身長優勝は、歌露に入った前野氏だった。入ってすぐに50.6cmをはじめとする大カジカを4本揃えた。「嫁が欲しい。アブラコの嫁が欲しい。」という願いも最後まで叶えることは出来ずに、嫁はハゴトコとなった。私はアブラコ46cm、カジカ35.2cm、重量5.1kgの1322点で4位の成績だった。

堀内氏が間違えて汐見団地前で下りた。それでもめげずに砂浜でも使えるというボブスレーを引っ張って歩いて日勝大和で釣り始めたのは2時頃だった。その粘りを発揮して釣

り上げたアブラコは50.0cmあったが、惜しくも賞を逃してしまった。

なじみの車屋ラーメンで昼食をとったが、そこで、私がなくしていた酒入り魔法瓶が返ってきた。昨年の10月大会で忘れていったものらしい。よくぞ保管しておいてくれたものだ后感心する。ここのラーメンは私の口には合わないが、とびっきりの愛想に加えてこの親切心に今後もこの店を使おうと思う。

帰りにアクシデントがあった。バスがピーピーと鳴り出し、なんだかオーバーヒートしたようだった。それでも運転手の機転でラジエータに繋がるホースを仮修理し、海岸沿いにあった小屋の主人から水を分けてもらって無事帰ってくる事が出来た。

【オホーツク紋別港のカンカイ】



紋別港

大学のゼミ仲間の年1回の同期会は紋別への1泊旅行となった。幹事が私同様釣り好きで、紋別港で釣りをしながら旧交を温めようと気を遣ってくれたのだ。まずは某テレビ番組の地元美味しいランキング1位に選ばれた「マリーさんの木」で蟹チャーハンを堪能してから紋別港へと向かった。チカのサビキ釣り組3名とカレイの投げ釣り組3名の二組に分かれて釣りをすることになった。私はもちろん投げ釣り組みである。まずはイソメを購入すべく地元の橋口釣具店に立ち寄った。しかし、そこにはイソメは置いていなかった。もう1件のマルタケ伊藤釣具店に立ち寄ってみた。「何を釣るのか」と問われたのでカレイでもとっていると応えたが、そんなもの港のどこにいても釣れないと愛想がない。コマイなら少しは釣れるだろうと、親水防波堤（クリオネプロムナード）を紹介された。氷海展望塔「オホーツクタワー」を見ながら3人で8本の竿を出した。釣りのスチュエーシ

ョンとしては申し分ないのだが、アタリは皆無だった。
2時間ほど粘って、2匹のコマイが釣れただけだった。
残ねーん。

マリーさんの木



まずはカニチャーハンで腹ごしらえ



釣果はコマイ2匹

スチュエーションはよいのだがさっぱり
アタリがない

チカ釣り組と連絡をとると200匹は釣ったと豪語した。自分たちもチカ釣りに切り替えようと道具を片付けて、第2埠頭に向かった。確かにチカがバケツに200匹ほど入っていた。チカ釣り組にしてやられてしまったか。しかし、真実は違っていた。あまりにも釣れないので、隣の釣り人が朝方に釣り上げたものを恵んでくれたらしい。

よき学生時代の昔話が尽きることもなく、いいだけ飲んで、喰って、騒いで一晩を過ごし、次の日は紋別観光と洒落込んだ。大山町の紋別山にある観光施設であるオホーツクスカイタワーに上ってみた。同設されている公園では、紋別市が輩出した彫刻家である故齊藤顯司氏の手による彫像が多数並べられていた。

昼食に丸富食堂でいただいた海鮮丼は絶品だった。お土産に揚げたての蒲鉾と3,000円のカニを2杯買ったが、私が今まで食べたカニの中で一番と思えるようなものだった。同行した堀田守氏とは羅臼方面での釣行を約束した。

チカ釣り組

